

# インターネットを授業に



パソコン研修で画面に見入る教師ら

学校の教育現場にインターネットの活用を図る郵政、文部両省の共同プロジェクト「先進的教育用ネットワークモデル地域事業」（学校ネット）が今年度から全国30地域でスタートした。このうち大阪府と和歌山県にまたがる地域では、先月20日から小・中、養護の各学校計38校を結んで運用がスタートした。ハード面の整備が進む一方、インターネットを使った授業や交流のあり方、教材の研究はまだ緒に就いたばかりだ。インターネットで学校教育はどう変わるのか。「インターネット教育」への期待や課題などを聞いた。 【坂口 佳代】

## 全国30地域で「学校ネット」

大阪府松原市の市立布志<sup>38</sup>にパソコンが配備されて以来、パソコン教室で先月13、14日に教師を対象にした研修会が開かれた。拠点となる地域ネットワークセンターと同小を結ぶ高速無線通信システム（W-Li）について、同小の担当者、田中秀樹技能員（48）が説明する。「学校にある7台のパソコンから同時にインターネットに接続できます」。同小では1997年9月

にパソコンが配備されて以来、台数も限られていたため、多数のパソコンを使って一斉に授業を行うには不便だった。しかし、今回整

# 教師ら活用法を模索

備されたシステムは通信速度が20倍以上にアップ。すべてのパソコンから同時にインターネットへの接続が可能になった。

同小の徳田喜代子校長は「海外を含めてより広く交流するための環境は整った。」と話す。

## 教材作り、業界も支援

「教材作り、業界も支援」と題して、田中助教は「教材作りには、教材の活用方法が重要だ」と話す。

「教材作り、業界も支援」と題して、田中助教は「教材作りには、教材の活用方法が重要だ」と話す。

を入手する④ホームページを作り、情報発信する⑤電子メールで交流したり、専門家に質問する⑥の3段階があるとし、「日本でインターネットを活用している学校の8割が第1段階にとどまっており、先進国の田中助教は「教科書教育から子供が主体的に学ぶ教育へ、教師が学びのイメージを変えなければ、ハードが充実しても活用しきれない。検索だけでなく、表現、交流するための時間を確保することも大切だ」と指摘している。

「教材作り、業界も支援」と題して、田中助教は「教材作りには、教材の活用方法が重要だ」と話す。

